

週 報

「信じます。

不信仰なわたしを、
お助けください」。

(マルコによる福音書第9章24節)



人と神、人と人をつなぐ難しい働きをしています
日本基督教団 西宮公会堂

〒662-0834

兵庫県西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691

FAX 0798-63-4044

郵便振替 01170-3-4901

ホームページアドレス

<http://www.koudou.jp/>

電子メールアドレス

koudou@gamma.ocn.ne.jp

小さな手大きな手

5月31日(日)～6月1日(月)の兵庫教区総会では、以下の2つの沖縄に関する議案が提案されました。

〈第13号〉沖縄を含む、琉球弧の軍備拡大の問題について取り組みを進める件

〈第14号〉第44回教団総会に、議案「沖縄教区が『教団とは距離を置く』とする立場を継続している現状に関し、わたしたち教団の課題を検証し、沖縄教区との『対話』再開に向けた取り組みを開始する件」を提出する件

議案は承認されるのですが、ほぼ以下のような発言をし、教団議長挨拶分の、辺野古の事故について、その謝罪と撤回を求めました。

私事になります。2015年2月から、名護市辺野古米軍新基地建設反対の座り込みに、コロナ感染症時期までは、かなり頻繁に「無名」の参加者の一人として座り込みをさせて貰ってきました。

きっかけは、新基地建設反対の沖縄県議会意見書の中の「沖縄県民の尊厳を踏みにじるもので、到底容認できるものではない」の言葉に出会ったことです。私たちの日常では「死語」になっている言葉が「尊厳」です。

沖縄・辺野古、それは「平和の礎」に刻まれた人たち、生き残ることの出来なかった無念と、たとえば「文子おばあ(島袋文子さん)」の語る「血と涙の泥水を飲んで」生き延びた人たちの守らなければならない平和への願いの場でもあり、それをないがしろにし続ける、ヤマト・ヤマトンチュに対する怒りの場でもありました。

しかし、ウチナー・ウチナーンチュは、いつも穏やかで、亡くなった翁長雄志元知事は、叫ぶのではなく、「ウチナーンチュ、ウシェーテー、ナイビランドー」と、2015年の県民大会で、穏やかに、しかしきっぱりとおっしゃって

いました。2018年に亡くなられた後、那覇のご自宅をお訪ねさせていただいた時、「魂魄の塔」を建立した知事の御父様(翁長助静氏)から引き継いだ、翁長家の魂の言葉の額を拝見させていただいたりもしました。

辺野古で起こってしまった同志社国際高等学校の生徒、そして生徒たちを乗船させた船長の事故は残念です。高校生たちは、ただそこに出かけたのではなく、平和について事前に学習し、その学習の現場が沖縄であり、辺野古であるのは、必然というか、意味があります。本土、ヤマトには当たり前にある平和が、沖縄では今までも、今も脅かされ続けている場所だからです。

教区総会での沖縄についての議案の議事で、反対の立場で、「沖縄の問題は『政治的』だから」という意見を述べる人がありました。それに対して、「いいえ、沖縄の人たちの生活、そして何より望んでいるのは、島々を取り巻く海と大空であって、その自然を脅かす本土・ヤマトへの異議を申し立てているだけです」という主旨の発言をさせてもらいました。

教団議長挨拶文に、この事故のことが触れられています。しかし、それは、ウチナー・ウチナーンチュの願いや思いには、一切届いていませんし、触れられてもいませんし、むしろ踏みにじているとしか言いようのない内容です。翁長さんの言葉によれば、「ウチナーンチュ、ウシェーテー、ナイビランドー」そのものなのです。

で、その謝罪と撤回を求めました。

以上、2026年3月16日に沖縄県名護市の辺野古沖の小型船転覆事故で亡くなられた、同志社国際高等学校の女子生徒、そして小型船の船長に、心より哀悼の意を表します。

2026年6月1日

西宮公会堂

菅澤邦明